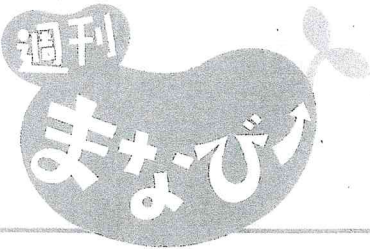


話題



寄稿記事

たった一人の卒業式

俳人 木割大雄

伊丹市をはじめ、全国各地の小学校で「俳句の授業」に取り組む尼崎市在住の俳人木割大雄さん(75)が、6年前から続けているという島根県の小学校との交流を寄稿してくれた。

日本海に人口6000人の知夫里島がある。島根県隠岐郡知夫村というその島で19日、ただ一人の6年生の卒業式が行われた。在校生23人、教員9人の温かい拍手に送られて、私とその女の子に会うのは4回目。そんな機会がもてたのには訳がある。ある奇縁から、各地の小学校で「いのち言葉」に



「みづきちゃんを送る会」に出席した木割大雄さん(左)とみづきちゃん(左から2人目) 島根県隠岐郡知夫村、知夫小

交流だいたがばこと 島諸岐 島根県知夫小学校

〈雪〉ではなく〈雪たち〉について語るために俳句教室を続けて20年になる。伊丹市の「ことば特区」の講師になってからでも8年。隠岐諸島通いも文字通り、俳縁奇縁からだ。この子の夢を式の祝辞で校長先生が紹介した。「みづきちゃんは将来、この島で老人介護、福祉の仕事をしたいと言っています」

島は高齢者人口の比率が高いのだろう。そういう島の生活で、同級生のいない寂しさに悩みながらも、そんなことを考えていたのかと思うと、胸が熱くなった。小柄で6年生とは見えな

いかわいのみづきちゃん、式では最後まで姿勢を崩さなかった。別れの言葉も胸を張って読んだ。たった一人で退場していく時、家族と目が合って、初めてニコツと笑った。大人たちが感動の拍手を送っていたその時、一番号泣していた4年生の男の子は、みづきちゃん弟だった。

5年生の3度目の出合いでは明るさが戻り、給食も一緒に食べた。そして6年生。こんな俳句を書くようになっていた。雪たちがしんしん降って空で舞う